

# 琉球大学学術リポジトリ

## 豊見山和行・経歴業績

|       |  |
|-------|--|
| メタデータ | 言語: ja<br>出版者: 琉球大学人文社会学部琉球アジア文化学科<br>公開日: 2022-04-07<br>キーワード (Ja):<br>キーワード (En):<br>作成者:<br>メールアドレス:<br>所属: |
| URL   | <a href="https://doi.org/10.24564/0002017888">https://doi.org/10.24564/0002017888</a>                          |

## 豊見山和行 略歴・研究業績

### 略歴

- 一九五六年 二月 宮古島下地町字上地に生まれる
- 一九七二年 四月 琉球政府立首里高等学校入学
- 一九七五年 三月 沖縄県立首里高等学校卒業
- 一九七六年 四月 琉球大学法文学部史学科入学
- 一九八〇年 三月 琉球大学法文学部史学科卒業
- 一九八〇年 五月 仲里村立久米島中学校教諭、臨時任用(同年七月まで)
- 一九八〇年 九月 那覇市立小禄中学校教諭、臨時任用(同年十二月まで)
- 一九八一年 九月 沖縄県立読谷高等学校教諭、臨時任用(同年十二月まで)
- 一九八二年 四月 名古屋大学文学部研究生
- 一九八四年 四月 名古屋大学大学院文学研究科博士前期課程史学地理学専攻(日本史)入学
- 一九八六年 三月 名古屋大学大学院文学研究科博士前期課程史学地理学専攻(日本史)修了(文学修士)
- 一九八六年 四月 名古屋大学大学院文学研究科博士後期課程史学地理学専攻(日本史)進学
- 一九八九年 三月 名古屋大学大学院文学研究科博士後期課程史学地理学専攻(日本史)単位取得満期退学
- 一九八九年 四月 日本学術振興会特別研究員(一九九一年三月まで)

- 一九八九年 四月 沖縄大学短期大学部非常勤講師(一九八九年九月まで)
- 一九八九年 四月 琉球大学教養部非常勤講師(一九九一年三月まで)
- 一九九〇年 十月 沖縄キリスト教短期大学非常勤講師(一九九八年三月まで)
- 一九九一年 四月 琉球大学教育学部専任講師(歴史学担当)
- 一九九二年 三月 琉球大学教育学部助教授
- 一九九九年 四月 名古屋大学より博士(歴史学)の学位を取得  
(博士論文…「近世琉球王国政治外交史の研究」)
- 二〇〇二年 八月 信州大学文学部招聘講師
- 二〇〇四年 四月 琉球大学教育学部教授
- 二〇一三年 四月 琉球大学法文学部国際言語文化学科琉球アジア文化専攻教授
- 二〇一六年 五月 放送大学沖縄学習センター面接授業講師
- 二〇一八年 四月 琉球大学人文社会学部琉球アジア文化学科教授
- 二〇二一年一月 放送大学沖縄学習センター面接授業講師

### 学会および社会における活動等

- 一九九一年 四月 琉球王国評定所文書編集委員会委員
- 一九九三年 四月 那覇市史編集委員会委員
- 一九九三年 四月 沖縄県歴代宝案編集調査委員会委員

- 一九九四年 四月 沖繩県立博物館新館展示委員会委員
- 一九九九年 四月 沖繩県文化財保護審議会第一専門部会(有形文化財)委員
- 二〇一〇年 四月 新沖繩県史編集委員会委員
- 二〇一一年 四月 宮古島市史編さん委員会委員
- 二〇一五年 四月 久米島町史編集委員会委員
- 二〇一八年 四月 沖繩県文化財保護審議会委員
- 二〇一八年 四月 那覇市琉球国王尚家伝来品修理等審議会委員
- 二〇一八年 四月 多良間村自然文化継承事業「郷土資料整理活用業務」
- 二〇二〇年 四月 円覚寺跡保存活用計画策定委員会委員
- 二〇二一年 四月 文化審議会専門委員(文化庁)
- 二〇二一年 七月 那覇市歴史博物館「百浦添御普請日記刊行業務」監修委員

## 賞

- 一九九一年一月 沖繩文化協会・比嘉春潮賞
- 一九九九年 三月 第三回窪徳忠琉中関係研究奨励賞
- 二〇〇五年 一月 第三二回伊波普猷賞(沖繩タイムス社)

著書・学術論文等

単著

二〇〇四年 『琉球王国の外交と王権』吉川弘文館

編著

二〇〇三年 『日本の時代史18 琉球・沖縄史の世界』吉川弘文館

共編著

一九八九年 『新琉球史近世編(上)』冊封の様相、「犯罪と刑罰」、琉球新報社

一九九〇年 『新琉球史近世編(下)』「官人制度の一側面」、琉球新報社

一九九一年 『新琉球史古琉球編』統一王国形成期の対外関係」、琉球新報社

一九九七年 『新しい琉球史像』御後絵からみた琉球王権」、榕樹社

二〇〇五年 『街道の日本史56 琉球・沖縄と海上の道』吉川弘文館

二〇一三年 『国立台湾大学図書館典蔵琉球関係史料集成』第一卷、国立台湾大学図書館

二〇一四年 『国立台湾大学図書館典蔵琉球関係史料集成』第二卷、国立台湾大学図書館

二〇一五年 『国立台湾大学図書館典蔵琉球関係史料集成』第三卷、国立台湾大学図書館

二〇一六年 『国立台湾大学図書館典蔵琉球関係史料集成』第四卷、国立台湾大学図書館

二〇一七年 『国立台湾大学図書館典藏 琉球関係史料集成』第五卷、国立台湾大学図書館

## 共著

一九八七年 地方史研究協議会編『琉球・沖縄―その歴史と日本史像―』近世琉球の王権に関する一考察―薩摩藩統治下の裁判権を中心に―、雄山閣出版

一九八八年 『日本歴史体系3 近世』幕藩体制下の琉球王国、山川出版社

一九八九年 『琉球王国評定所文書』第三卷、「琉球の対清外交について―雍正・乾隆期の一貢免除問題を中心に―」、浦添市教育委員会

一九九二年 『沖縄文学全集第一二巻 紀行』西表島「おない崎」についての覚書―西表島調査断想―、国書刊行会

一九九二年 『史層を掘るⅢ 王権の基層へ』琉球の王権儀礼―祭天儀礼と宗廟祭祀を中心に―、新曜社

一九九三年 『真境名安興全集第三巻』解題 真境名の歴史意識、琉球新報社

一九九三年 『久米村―歴史と人物―』琉球外交と通事・河口通事、ひるぎ社

一九九三年 『図説琉球王国』薩摩の琉球侵攻「侵攻前夜の東アジア情勢」「島津氏の琉球支配」「冊封と進貢」、河出書房新社

一九九六年 『新しい近世史2 国家と対外関係』近世中期における琉球王国の対薩摩外交、新人物往来社

一九九七年 『中世日本列島の地域性』琉球国の地域的構造について、名著出版

一九九九年 『屋部久護家文書 名護市史資料編5』王府の仕明（開墾）政策と久護家文書、名護市教育委員会

- 二〇〇〇年 『民衆運動史』第一巻、「近世琉球民衆の「抵抗」の諸相」、青木書店
- 二〇〇〇年 『地域の世界史』第一巻、「複合支配と地域―従属的「二重朝貢国」・琉球の場合―」、山川出版社
- 二〇〇〇年 『十七世紀の日本と東アジア』「十七世紀における琉球王国の対外関係―漂着民の処理問題を中心に―」、山川出版社
- 二〇〇一年 『海のアジア ⑤越境するネットワーク』「航海守護神と海域―媽祖・観音・聞得大君―」、岩波書店
- 二〇〇一年 『バウン号の苦力反乱と琉球王国』「バウン号事件と八重山」、榕樹書林
- 二〇〇一年 『なは・女のあしあと 前近代編』「市立ち・裁判・商活動から見た首里王府と女性」、那覇市総務部女性室
- 二〇〇二年 『日本の中世5 北の平泉、南の琉球』「南の琉球」、中央公論新社
- 二〇〇二年 『土地所有史』「琉球の土地制度」、山川出版社
- 二〇〇二年 『沖縄県史 資料編13 硫黄島』「琉球王国時代における硫黄島史の諸相」、沖縄県教育委員会
- 二〇〇四年 『県史47 沖縄県の歴史』山川出版社
- 二〇〇五年 『沖縄県史各論編4 近世』「総論「近世琉球」という時代」、沖縄県教育委員会
- 二〇〇六年 『国宝「琉球国王尚家関係資料」のすべて』「国王装束の歴史的背景」「琉球・薩摩関係資料」「政務・財政関係資料」、沖縄タイムス社
- 二〇〇六年 『地域の自立 シマの力(下)―沖縄から何を見るか 沖縄に何を見るか』「漁撈・海運・商活動―海面利用をめぐる海人と陸人の琉球史―」、コモنز
- 二〇〇六年 『琉球の歴史と文化―『おもろさうし』の世界―』「琉球国における海運と航海守護神信仰」、角川学芸

出版

- 二〇〇八年 『やわらかい南の学と思想』『近世琉球史像の見直し―紛争・商売・盗難―』、沖縄タイムス社
- 二〇一〇年 『沖縄県史各論編3 古琉球』第一章 明朝の成立と朝貢開始期の諸問題』、沖縄県教育委員会
- 二〇一〇年 『〈江戸〉の人と身分』『近世琉球の土と民(百姓)』、吉川弘文館
- 二〇一一年 『グローバルゼーションと(生きる世界) 生業からみた人類学的現在』『近世琉球の年貢賦課と百姓の生業様式―土地所有・雑物・喰実畑―』、昭和堂
- 二〇一二年 『読谷村史第六巻 資料編五 統計にみる読谷山』『警察』、読谷村役場
- 二〇一二年 『みやこの歴史 宮古島市史第一巻(通史編)』『首里王府の宮古統治』、宮古島市教育委員会
- 二〇一三年 『日本の対外関係5 近世的世界の成立』『島津氏の琉球侵略と琉球海域の変容』、吉川弘文館
- 二〇一四年 『沖縄ジェンダー学1 「伝統」へのアプローチ』『前近代琉球の家族・夫婦・親子をめぐる権力関係』、大月書店
- 二〇一五年 『ソテツをみなおす 奄美・沖縄の蘇鉄文化誌』『琉球王府による蘇鉄政策の展開』、ポーターインク
- 二〇一七年 『琉球史料学の船出 いま、歴史情報の海へ』『言上写』再論―近世琉球における上申・下達文書の形式と機能―、勉誠出版
- 二〇一九年 『沖縄県史 図説編 前近代』『琉球国の成立(三山統一)と領域の拡大』『琉球国のネットワーク』『絵地図からみた琉球』『外からの琉球人イメージ』、沖縄県教育委員会
- 二〇一九年 『琉球船と首里・那覇を描いた絵画史料研究』『首里・那覇港図屏風にみる漂着民・薩摩役人・民衆』等、思文閣出版



二〇一九年 『島嶼地域科学という挑戦』島嶼国・琉球の自律性について―国用・食料確保・農政の視点から―、  
ポーターインク

二〇二〇年 『琉球王国尚家文書「火花方日記」の研究』琉球史における冊封関係の諸相、榕樹書林

二〇二一年 『洋学史研究事典』琉球における種痘の普及、思文閣出版

### 論文・史料紹介・書評

一九八〇年 「近世琉球における夫役制の成立―沖縄本島地域を中心に―『琉大史学』第一一号

一九八〇年 「近世両先島における夫役制の成立」『地域と文化』第三号、ひるぎ社

一九八五年 「江戸幕府外交と琉球」『沖縄文化』第六五号

一九八七年 「琉球王国形成期の身分制について―冊封関係との関連を中心に―『年報中世史研究』第一二二号

一九八七年 「首里王府の祭祀規制策と西表―農耕儀礼との関連から―」『地域と文化』第四〇・四一合併号、ひるぎ社

一九八八年 「近世琉球の外交と社会―冊封関係との関連から―」『歴史学研究』第五八号

一九八九年 「近世琉球の王府制度に関する一考察―「おかず書」・「結状」の分析を中心に―」法政大学沖縄文化研

究所紀要『沖縄文化研究』第一五号

一九八九年 「冊封使・在番奉行・浦添間切について―「屋嘉部里之子親雲上御仮屋守日記」から―」『浦添市立図書館紀要』第一号、浦添市立図書館

一九八九年 「琉球の罪と罰」、「同(一)」、「地域と文化』第五五号、第五六号、ひるぎ社

一九九〇年 「琉球の罪と罰」(三)、(四)、(五)、(六)『地域と文化』第五七号、第五八・五九合併号、第六一号、第六二号、ひるぎ社

一九九〇年 「琉球王権への一視点―近世における儀礼の転回―」『文藝』二九(4)、河出書房新社

一九九〇年 「史料紹介」琉球国王家中行事 正月式之内」『浦添市立図書館紀要』第二号、浦添市立図書館

一九九一年 「宮古諸島の遠見台」『沖縄県歴史の道調査報告書(8)―宮古諸島の道―』、沖縄県教育委員会

一九九一年 「琉球の罪と罰」(七)、(八)『地域と文化』第六六号、第六七号、ひるぎ社

一九九二年 「古琉球史の課題―人の移動・交流の視点から―」『歴史地理教育』第四八七号

一九九二年 「史料紹介」国学規模帳・国学公事帳について」『浦添市立図書館紀要』第四号、浦添市立図書館

一九九三年 「琉球における対中国関係文書について」『第一回 琉球・中国交渉史に関するシンポジウム論文集』

#### 沖縄県立図書館

一九九三年 「江戸時代の「難民」問題―琉球国における漂流・漂着を中心に―」『国際交流』第六二号、国際交流基金

一九九三年 「資料紹介」近世琉球の裁判史料「問付返答」について」『沖縄文化』第七七号、沖縄文化協会

一九九三年 「史料紹介」勅使御迎大夫真栄里親方日記について」『歴代宝案研究』第三・四号、沖縄県教育委員会

一九九四年 「近世琉球の世界―犯罪・紛争の視点から―」『石垣市立八重山博物館紀要』第一二号

一九九六年 「琉球国の進貢貿易における護送船の意義について」『第五届中琉歴史関係学術会議論文集』、福建教育

#### 出版社

一九九六年 「近世琉球史料「諸役増減」について」『琉球大学教育学部』第四八集

- 一九九九年 「近世初期における琉球王国の対薩摩外交について」『琉球大学教育学部紀要』第五四集
- 二〇〇〇年 「琉球王国末期における対外関係―琉米・琉仏条約締結問題を中心に―」『歴史評論』六〇三号
- 二〇〇〇年 「『秀吉冠服』と琉球国王冠服の二、三の問題」『王妃衣裳研究会報告書』首里城公園管理センター
- 二〇〇〇年 「近世琉球における首里王府の年中祭祀と円覚寺」『沖縄県文化財調査報告書 第一四〇集 旧円覚寺美術工芸関係資料調査報告書』 沖縄県教育委員会
- 二〇〇〇年 「冠船貿易からみた琉球王国末期の対清外交」琉球大学法文学部紀要『日本東洋文化論集』第六号
- 二〇〇一年 「大学所蔵資料と歴史学」『びぶりお 琉球大学附属図書館報』一三一号
- 二〇〇一年 「近世琉球における漂流・漂着問題―漂着民救護制度を中心に―」『第八回琉中歴史関係国際学会議論文集』、琉球中国関係国際學術會議
- 二〇〇二年 (漢那敬子共著)「琉球・タイ交流史についての予備的調査―調査紀行と課題―」(沖縄県)史料編集室紀要』第二七号
- 二〇〇三年 「島嶼性と海上交通からみた近世の琉球社会」『別冊 環 ⑥琉球文化圏とは何か』、藤原書店
- 二〇〇四年 「虚構と実像の錯綜する島Ⅱトカラ」『琉球と日本本土の遷移地域としてのトカラ列島の歴史的位置づけをめぐる総合的研究』(高良倉吉研究代表)二〇〇一～二〇〇三年度科学研究費補助金(基盤研究B)研究成果報告書
- 二〇〇四年 「久米島・上江洲家文書中の「首里王府・久米島往復文書控」について」『琉球大学教育学部』第六四集
- 二〇〇四年 「読書案内アジアの中の琉球史像(世界史の研究(201))」『歴史と地理』第五七九号、山川出版
- 二〇〇五年 「琉球王国の宗教―国家祭祀と民間信仰―」第五回日韓・韓日歴史家会議報告書『歴史における宗教と

信仰』、日韓文化交流基金

- 二〇〇五年 「琉球史における自然と開発―琉球列島生活環境史の試み―」〔特定領域研究「資源の分配と共有に関する人類学的統合領域の構築」研究彙報〕第九号
- 二〇〇六年 「琉球列島の海域史研究序説―研究史の回顧と二、三の問題を中心に―」『琉球大学教育学部』第六八集
- 二〇〇六年 「冊封使・徐葆光の記録『中山伝信録』と琉球」『国文学解釈と鑑賞』第七一卷一〇号、至文堂
- 二〇〇七年 「歴史研究最前線(31) 近世琉球史への視点―薩摩藩による琉球支配の再検討―」『歴史地理教育』第七一四号
- 二〇〇八年 「宮古八重山津波(一七七一年)における災害・年貢・復興について―石垣島と多良間島を中心に―」『琉球大学教育学部社会科学教育講座社会科学論集二〇〇八―高嶋伸欣教授退職記念―』
- 二〇〇九年 「江戸上り」から「江戸立ちへ―琉球使節像の転回―」『琉球使節、江戸へ行く!』沖縄県立博物館・美術館 博物館特別展図録
- 二〇一〇年 「敗者の戦略としての琉球外交―「唐・大和の御取合」を飼い慣らす―」『史苑』第七〇号
- 二〇一〇年 「島津氏支配下の琉球史像の転回―国家・社会・民衆―」『沖縄研究ノート』第一九号
- 二〇一〇年 「徐葆光の琉球来航(一七一九年)とその後―冊封使節への対応の諸相―」『第十二届中琉歴史系国際学術会議論文集』、北京図書出版社
- 二〇一〇年 「書評」上原善善著『島津氏の琉球侵略―もう一つの慶長の役』the International Institute for Okinawan Studies, University of the Ryukyus` Vol.1 no.2
- 二〇一二年 「船と琉球史―近世の琉球船をめぐる諸相―」『船の文化からみた東アジア諸国の位相―近世の琉球を

中心とした地域間比較を通じて―』、関西大学文化交渉学教育研究拠点

二〇一二年 「近世琉球の政治構造について―言上写・僉議・規模帳等を中心に―」周縁と中心の概念で読み解く

東アジアの「越・韓・琉」―歴史学・考古学研究からの視座―、関西大学文化交渉学教育研究拠点

二〇一三年 「酒をめぐる琉球の国家と社会」『HUMAN』第五号、平凡社

二〇一三年 「近代琉球の災害史について―環境社会史の視座から―」『二〇一一年度トヨタ財団研究助成採択プログラム沖縄・奄美島嶼社会における行政防災施策・制度・システムの歴史の変遷に関する包括的研究成果報告書』、琉球大学島嶼防災研究センター

二〇一四年 「けふり・くちや船・脱体・みけい」考―言葉からみた琉球史―『沖縄文化』第一一六号、沖縄文化協会

二〇一四年 「尚家文書「田地廻勤首尾」について―紹介と史料翻刻（抄）―」『日本東洋文化論集』第二〇号

協会

二〇一五年 「尚家文書「田地廻勤首尾」について―紹介と史料翻刻（その2・完）―」『琉球アジア文化論集』創刊号

二〇一六年 「琉球国における清国・日本医療の受容と展開」『第一一回 琉球・中国交渉史に関するシンポジウム論文集』沖縄県教育委員会

号

二〇一六年 「琉球国における清国・日本医療の受容と展開」『第一一回 琉球・中国交渉史に関するシンポジウム論文集』沖縄県教育委員会

論文集』沖縄県教育委員会

二〇一六年 『牛痘一卷』（一八六八年）について―史料翻刻と紹介―（上）『琉球アジア文化論集』第二号

二〇一七年 『牛痘一卷』（一八六八年）について―史料翻刻と紹介―（下）『琉球アジア文化論集』第三号

二〇一八年 「琉球国の外交と日本・明清中国」『琉球アジア文化論集』第四号

二〇一八年 「琉球史における時代区分論―時代名称・歴史概念の再検討―」『琉球大史学』第二〇号

- 二〇一九年 「琉球王府の財政改革史料（一八二九年）について―「尚家文書」第四五二号の紹介―」『琉球アジア文化論集』第五号
- 二〇二〇年 「琉球国後期における公定価格制度について―「諸物代付帳」と「多良間島諸物代付帳」を中心に―」『琉球アジア文化論集』第六号
- 二〇二〇年 「史資料から見た九州・琉球関係史の一断面」『がじゅまる通信』No.8、榕樹書林
- 二〇二一年 「琉球国要書抜粹」について―史料翻刻と紹介―（上）『琉球アジア文化論集』第七号
- 二〇二一年 「近世琉球における首里王府の年中祭祀と円覚寺（補訂）」『がじゅまる通信』No.92、榕樹書林
- 二〇二二年 「琉球国要書抜粹」について―史料翻刻と紹介―（下）『琉球アジア文化論集』第八号